

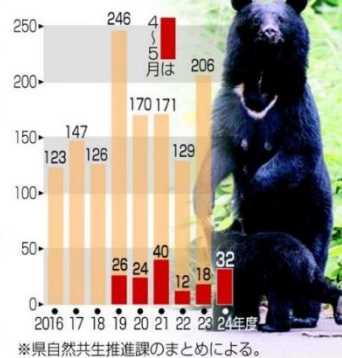
年 組 名 前 :

県内昨年度目撃206頭、現在も相次ぐ 餌求め住宅地周辺にも

クマ繁殖期入り要注意

2023年度に山梨県内で目撃されたツキノワグマの頭数は206頭で、現在の統計方法になった16年度以降で、昔に多かったことが、県のまとめで分かった。冬眠前の秋に餌が少なかったことが影響したとみられる。今年4〜5月も目撃が相次いでいて、専門家は「繁殖期となる6月に向け、さらに行動範囲が広がる可能性がある」と指摘。全国的にクマによる人的被害が増えおり、山菜採りや夏の登山シーズンを迎えるの前に、県などが注意を呼びかけている。

近年の県内におけるツキノワグマの目撃情報



※県自然共生推進課のまとめによる。

県自然共生推進課によると、目撃されたツキノワグマの頭数は19年度の246頭が最多。23年度は19頭多かった22年度に比べて1・6倍に増えた。23年度の月別の目撃情報は7月が43頭で最も多くなり、11月に37頭、6月と10月に35頭と続いた。10月には大月市、11月には丹波山村で、いずれも男性がクマに襲われてけがをする被害があった。

- 入山時の注意**
 - ▶事前に県や市町村ホームページを確認し、目撃情報の多い山を避ける
 - ▶通行者の多い登山道を利用する
 - ▶鈴や笛、ラジオなど音のするもの身につけ、人の存在を知らせる
- クマと遭遇したら**
 - ▶慌てず急な動作をせず、静かにその場を立ち去る
 - ▶大声で叫んだり、石などを投げたりしない
 - ▶近距離で遭遇した場合は背中を見せずにゆっくりと後退する
- 人家にクマを引き寄せないために**
 - ▶果物や野菜を屋外に放置しない
 - ▶発酵食品やベンキ、ガソリンなどにおいの強いものを屋外に置かない
 - ▶定期的な草刈りで見通しの良い環境をつくる

調査では、ブナの開花状況を図り、並行して判定して、クマの餌となるブナの実が少なくなり、人里に出没する回数が増えたとみられる。24年度は4月1日〜5月31日に32頭の目撃情報があり、昨年4〜5月の18頭、22年4〜5月の12頭を大きく上回った。市町村別の内訳は、都留で6頭、都留で4頭、市川三

郷、早川で3頭など。4月4日には市川三郷・市川南小付近、4月13日には上野原市の大規模住宅団地「コモア」の近くの近くなど、人の往来が多い場所でも目撃された。NPO法人「山梨ツキノワグマレスキュー」代表理事で、グマの生態に詳しい清水邦彦さん(68)北杜市は「山梨は植林された針葉樹が大多数を占めるため、クマの餌となる木の実が少なく、すぐに食べ物が見つかる人里に餌を探しに来ているのではないかと推測。『近年は人慣れしたクマが増えている印象があり、繁殖期で行動範囲が広がる6月以降はさらに目撃情報が増える可能性がある』と言

本来、クマは人間や動物を襲う凶暴性はないが、出会い頭の遭遇に驚いたクマや、子グマを守ろうとする親クマに襲われるケースが多く、農作業や溪流釣りの際にも注意が必要という。清水さんは「出会い頭を避けるため、クマよけの鈴をつけたり、ラジオをつけたりして人の気配を知らせることが有効な対策になる」と説明する。

クマによる人的被害は全国各地で増加。23年度の人的被害は、山梨など19道府県の計1988件で、死者6人を含む219人(速報値)。いずれも統計がある06年度以降で最も多くなった。24年度も北海道や秋田、岩手などで人が襲われる被害が起きている。

今後、山菜採りや夏の登山シーズンを迎える増加が予想されることから、県自然共生推進課は「事前に県や市町村のホームページなどを確認し、目撃情報の多い山は避け、入山時には通行者の多い登山道を利用してほしい」と求める。遭遇してしまった場合は急な動作をせず、静かにその場を立ち去るよう呼びかけている。

問1 山梨県内で多くのツキノワグマが目撃されています。次の年度の目撃数を教えてください。

・2022年度:.....頭 ・2023年度:.....頭

問2 県森林総合研究所は、その原因をどのように考えていますか。

.....
.....

問3 登山などで入山するときの注意点を教えてください。

.....
.....

問4 クマとの出会い頭を避けるためには、どのような対策が有効ですか。

.....

(2024年6月5日付 山梨日日新聞 23面)